



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円

道標



聖年に寄せて (1)

鹿兒島教区司教 中野裕明

絆を求めて

教区の皆さま、お元気で
しようか。
今回からわたしは、キリス
ト信者と神との正常な関
係についてお話ししたいと
思います。
イエスさまの有名なたと
え話に「ぶどうの木」のた
とえがあります。
「わたしはまことのぶど
うの木、わたしの父は農夫
である。わたしにつなが
ていながら、実を結ばな
い枝はみな、父を取り除か
れる。しかし、実を結ぶも
のはみな、いよいよ豊かに
実を結ぶように手入れをな
さる。」(ヨハネ15・1
2)

このたとえ話(同上1
17)の内容は豊かなので、
熟読し、黙想する必要があ
りますが、その核心は次の
文章にあります。
「父がわたしを愛された
ように、わたしもあなたが
たを愛してきた。わたしの
愛にとどまりなさい。わた
しが父の掟を守り、その愛
にとどまっているように、
あなたがたも、わたしの掟
を守るなら、わたしの愛に
とどまっていることになる。」(ヨハネ15・9)

17)と言っています。
この場合、「律法と預言
者」は旧約を象徴している
ことを指していることと理
解できます。
初代教会の頃、「旧約の
神は裁く神で、新約の神は
愛の神である」と説く人が
いましたが、教会はこれを
異端として退けました。し

「神に立ち返る」歩み始まる

カテドラルで通常聖年開幕ミサ



⑤水を祝福する司教 ⑥聖堂に向かう

「2025年通常聖年開
始」を記念する開幕式ミサ
が12月29日(日)夕方、鹿
兒島カテドラル・ザビエル
記念聖堂でささげられた。
午後5時からあった教会
一階ホールでのセレモニー
では、聖歌が歌われた後、
中野司教が「この式が恵み
と祝福の年であること。混乱
の時代に自らの内にある希望
の理由を尋ねる人々に答える
用意をすること。私たち
の平和と希望である
キリストがこの恵み
と祝福の年の旅をと
もに歩んでくださる
ように祈ることが大
切」と挨拶し、「聖
年の旅が祝福され、
キリストに向かっ
て歩むことができるよ
う」祈りをささげ
た。

司教の祈りが終わ
ると小島芳武助祭が
ヨハネによる福音
を、霧島彬神父が聖
年を公布する大勅書
「希望は欺かない」
を朗読し、その後香炉と十
字架を先頭に司祭団、信徒
が主聖堂へ行列した。参列
した信徒、修道者は約80
人、司教とともに共同司式
した司祭は10人、助祭1人
だった。

カテドラルの中央扉を通
つての入堂が終わると、洗
礼を記念する式があり、洗
礼盤に湛えられた水が祝福
され、典礼聖歌「この水を
受けた」が歌われ、この日
の典礼「聖家族」のミサへ
と移った。
ルカによる福音の朗読後
に「私たちは全世界の教会
と時を同じくして聖年開幕
のミサをささげている」と
宣言した中野司教は、その
説教の中で聖年についてそ
の歴史と意義について説明
した。その後、豊かになり
紛争が絶えなくなった現代
に蔓延る「神の抜き生活
からの脱却」を訴えた司教
は、1から3戒は人間の神
に対する義務、その後が社
会生活の秩序(モラル)が
記されているモーセの律法
(天主の十戒)の大切さを
訴え、信仰に立ち返ってモ
ラルを大切に、また神へ
の信仰によって生きる共同
体(家族)となれるよう1
年を歩もうとメッセージを
送った。
その後の共同祈願では、
ゆるしの力によって強めら
れ、福音の光の中で聖年を
歩み始めることができるよ
う祈りがささげられた。
この日のミサの前には、
午後4時から、ゆるしの秘
跡を受ける機会が設けられ
たほか、ミサ参列者たちに
は「聖年を記念するカー
ド」が配られた。

かし、実際、現在でもそ
うに考えている人が多い
ことも事実です。
大事なことは、父である
神と子である神(イエス)
とわたしたち信者は、それ
ぞれの神の「掟」を遵守す
る限りにおいて、繋がれて
いる、という点です。その
掟とは「愛」にほかなりま
せん。
児童養護施設「愛の聖母
園」では毎年クリスマス会
を催します。これは、施設
で暮らしている人たち全員
で、1年間支援して下さっ
た人たちへの感謝を表すた
めの催しです。

ところで、このクリスマス
会の昨年のテーマは、「絆を
求めて」でした。これは、ク
リスマス実行委員会の自発的
な発案だそうです。
施設の利用者と先生方と
いう血縁関係のない方々が
ともに、「絆を求めて」催
す神の子の誕生を祝う「ク

リスマス会」は、神と人間
がイエスを通して繋がれた
という真実を見事に表現し
ていると思います。それは
「神の愛が見える姿でわた
したちの前に現れた」こと
を見事に表現していたと思
います。施設長以外、1人
のキリスト信者もいません

が、これまでこの施設を育
んで来られたシスター方や
神父さん方に感謝いたしま
す。
わたしたちはこの1年、
人間の思い上がり捨て、
神が統括なさる秩序を謙虚
に受け入れていきたいと思
います。

聖年の祈り

天の父よ、
あなたは、わたしたちの兄弟、御子イエスに
おいて信仰を与え、
聖霊によってわたしたちの心に愛の炎を
燃え上がらせてくださいました。
この信仰と愛によって、
神の国の訪れを待ち望む、
祝福に満ちた希望が、
わたしたちのうちに呼び覚まされますように。
あなたの恵みによって、わたしたちが、
福音の種をためず育てる者へと
変えられますように。
この種によって、新しい天と新しい地への
確かな期待をもって、
人類とすべてのものが豊かに
成長していきますように。
そのとき、悪の力は打ち払われ、
あなたの栄光が永遠に光り輝きます。
聖年の恵みによって、
希望の巡礼者であるわたしたちのうちに、
天の宝へのあこがれが呼び覚まされ、
あがない主の喜びと平和が
全世界に行き渡りますように。
永遠にほめたたえられる神であるあなたに、
栄光と賛美が世々としえにありますように。
アーメン。

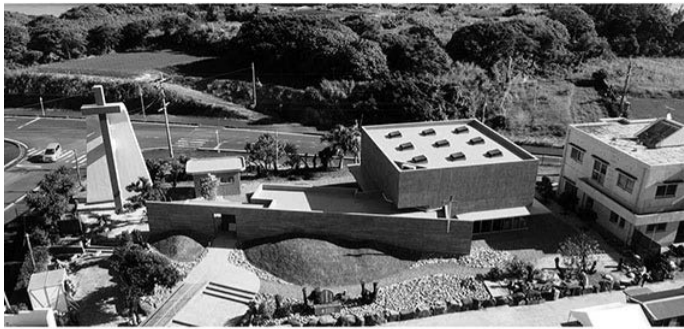
献堂式を終えて

大笠利教会 主任司祭 内野 洋平

教会建設の音が挙がって
から8年、この度皆さまの
お祈りとご支援によって新
聖堂落成式を迎えることが
できました。改めて皆さま
に感謝申し上げます。

この間、これまでにない
建築資材高騰による厳しい
経済情勢と建設資金活動が
思うようにできない試練の
中、当初の設計と予算計画
の見直しを重ね、不安と戸
惑いを覚えながらの建設の
歩みでしたが、日々のイエ
スさまのみ言葉と皆さまか
らの心温まるご支援と励ま
しを通して皆さまが共に歩
み、導いてくださっている
ことに感謝をささげる日々
でした。

献堂式当日(12月8
日)、島内からの参加者約
260人が共に集い、寒空
のもと心配されていた天候



教会の全景



聖堂内部 祭壇



鐘楼を祝福

も回復し、午前11時から改
修工事を施したアンジェラ
スの鐘樓の祝福式から始ま
りました。

祝福式では、かつてサレ
ジオ会の子マツチ神父が作
詞作曲された「大笠利の
鐘」を歌い、中野司教さま
による祝福とお告げの祈り
と共に、これまで6年間使
用を控えていた平和の鐘の
音が再び大笠利の空にこだ
まし、感慨深いものがあり
ました。

そして、献堂式のミサに
おいては新聖堂の水の祝
福、祭壇と壁への塗油、献
香、ロウソクの点火式が行
われ、聖別して頂きました
。ミサ後は信徒会館での
祝賀会に移り、皆さまへの
感謝を込めて準備した食事
と余興で盛大に献堂の喜び
の時を共にすることができ

ました。
大笠利宣教120周年記

新聖堂献堂

喜びの声

水野タクエ (90歳)

8年前、私が82歳の時
に、お聖堂が改修されると
聞き、私は「献堂式まで生
きていることはできないだ
ろうなあ」と思いました。
また「本当に出来上がるの
かな」と思いました。

旧聖堂では、壁が剥がれ
落ちたりしている中で、
「教会建設のための祈り」
が始まりました。

長年の持病にもかかわらず、
献堂式のごミサにも参
加でき、神様からのお恵み
に感謝しています。

100年
前、チマツチ
神父様がコン
サートでご披

念でもある今年、向こう80
年、200周年に向けてこ
の新聖堂が大切に保たれ、
次世代の人たちに信仰が引
き継がれていくことを願
い、これからもキリストの
平和と福音の喜びに生かさ
れた共同体づくりに努めて
いきたいと思えます。新聖



露された「大笠利の鐘」の
聖歌を聞いた先人たちの思
いを感じ、胸がいっぱいに
なりました。(右写真は旧
聖堂の献堂式)

堂の規模はコンクリート造
平屋建て、延床面積190
㎡(57・4坪)、80席収
容、総工費約1億3400
万。どうぞ、奄美へ来島の
際には大笠利教会にお立ち
寄りください。これまでの
すべての支援者に感謝し、
ご報告を終わります。

鐘を通してお寺と交流

谷山教会

鹿児島市和田1丁目にあ
る妙行寺(みょうぎょうじ)
の副住職・井上孝彌(たか
や)さんが12月15と24日、
ミサに参列してください。
妙行寺では住職の井上從
昭(よしあき)さんと長男で
副住職の孝彌さんが中心にな
って2020年から「出張除
夜の鐘」を始めたとのこと。
大晦日には妙行寺には千人を
超える人々が参拝に訪れ、除
夜の鐘をついていられるら
しい。しかし鐘樓の階段は勾配
が急で幼児やお年寄りには難
儀なこと。そんな他の人が鳴
らす鐘を聞くことしかできな
い人たちの寂しそうな姿を目
の当たりにしてきた2人は、



教会の鐘を鳴らす

「それなら、こちらから出向
こう」と「出張除夜の鐘」
(出張は原則、鐘の運搬と僧
侶の法話、鐘のつき方の指導
がセットで、鐘の貸出もす
る。いずれも無料)を始めら
れ、2023年2月には、N
PO法人まで設立させてい
る。

そんな活動的なご住職ら
は谷山教会にも「同じ宗教団
体として何かチャレンジしま
せんか」とシスター安藤を通
して24日のイブのミサに
も、「妙行寺はご近所、行つ
たり来たり仲良くできたら
いな」そう思った年末とな
った。(報告・谷山教会広報)

2月25日教区の日ミサ

(教区昇格記念)

鹿児島カテドラル・ザビエル教会

- ・16時～ゆるしの秘跡 (1F小聖堂、2F主聖堂)
- ・17時半～聖年のためのミサ 司式：中野裕明司教
- ・ミサ後、1Fホールにて簡単な茶話会。

*このミサへの参列は「聖なる巡礼」にあたりますので、この日をもって聖年の全免償を受けさせていただきます。

*侍者(男女、壮年まで)の募集：自分用の侍者服を持参し、当日16時半にカテドラル主聖堂に集合してください。

TUỔI TÁC LÀ MỘT HỒNG ÂN

Tôi thuộc thế hệ 7x, sinh sau chiến tranh nên tuổi thơ thiếu thốn đủ điều. Đám lo chơi chúng tôi chỉ mong nhanh đến Tết để được mặc quần áo mới, được tiền lì xì mới để dứt dứt con heo đất, được ăn bánh chưng dưa hấu và nhiều loại kẹo mứt mà cả năm chưa thấy bao giờ, được hít mùi pháo, giành nhau những viên pháo chưa nổ... và nhất là được thêm 1 tuổi, thấy mình lớn hơn, không bị gọi là "con nít con nôi" nữa.

Nay tôi đã đến U50, sinh sống tại một đất nước văn minh, giàu mạnh nhất nhì thế giới, nên cái gì cũng có, cũng tiện lợi... Mỗi năm tôi đón Tết Tây, đón Tết Ta với nhiều cảm xúc khác lạ, không còn cái cảm giác mong chờ, háo hức như xưa

Có lẽ để giúp tôi chuẩn bị tâm lý đón nhận tuổi trung niên và nhiều biến cố khác, Chúa sai tôi đi phục vụ những người cao tuổi trong một Nhà hưu dưỡng Công giáo, dành đặc biệt cho người già cả neo đơn. Một công việc tôi chưa từng làm và cũng không có một chút kinh nghiệm nào.

Trong 15 năm ở Nhật, Chúa cho tôi chứng kiến sự ra đi của hơn 50 ông bà trong Nhà hưu mà tôi có thời gian gần gũi, chăm sóc... Có người hôm nay tôi còn giúp họ ăn uống, ngày mai họ đã không còn, và ngày mốt chỉ là một hũ tro tàn. Ban đầu tôi bị sốc, không chấp nhận được.

Khi gần đến 40 tuổi, tôi bị rụng tóc nhiều hơn và có tóc bạc, đầu gối và lưng hay đau nhức, hay quên, muốn học tiếng Nhật thêm nhưng bộ nhớ không chịu nạp nữa, khó ngủ hơn... từng chút một Chúa cho tôi cảm nhận và hiểu được tâm lý của các ông bà mà tôi tiếp xúc hằng ngày, Ngài giúp tôi đón nhận TUỔI TÁC trong sự bình an, nhẹ nhàng, thuận theo quy luật tự nhiên một cách hết sức bình thường, và nhất là trong tâm tình TẠ ƠN.

Tạ ơn Chúa vì Ngài cho tôi được làm người, được làm con Chúa, được trở thành Nữ tu của Chúa, được Chúa tin tưởng trao sứ mệnh. Tạ ơn Chúa cho tôi có năm tháng ngày giờ, Ngài kiên nhẫn dạy tôi và kiên nhẫn chờ tôi lớn lên, trưởng thành trong ĐỨC TIN, ĐỨC ÁI và trong nhận thức... Mỗi ngày, mỗi tuần, mỗi tháng, mỗi năm tôi đi qua mãi mãi là một lời TẠ ƠN.

福音を告げる施設のかかわりを確認 令和6年度カトリック福祉施設協議会研修大会

11月15日(金)から16日(土)、2日間の日程で鹿児島教区カトリック福祉施設協議会研修大会が奄美大島の名瀬カトリックセンターで行われました。



第1回大会は令和3年9月でしたが、コロナ禍のため、4回目にして初めての対面式で、しかも奄美大島の地で開催することができましたことに感謝したいと思います。

めりモート形式での開催となりました。今回は参加施設9施設、参加者67人(内鹿児島本土からの参加者13人)、4回目にして初めての対面式で、しかも奄美大島の地で開催することができましたことに感謝したいと思います。

も、嘘をつかれても信じ、「大丈夫だよ」と声をかけ安心させてあげること。また「寄り添うこと」「愛すること」の大切さを教えていただきました。

り、大いに盛り上がった分かち合いとなりました。研修だけでなく、懇親会においても職員同士の交流を図り、お酒を酌み交わしながら各施設でのカトリック施設としての取組に力を入れていくことを約束しながら、各々の施設談義に花を咲かせていました。

最後は、教区本部事務局長の霧島彬神父様による司式で、故ジョン・F・ケネディ第35代大統領の葬儀に使われた聖心教会の祭壇に集まり、祈りと感謝のうちに共に来年も集うことを約束し閉会となりました。(報告・希望の星学園 森 美樹夫)

修道会便り

▼ポルティユの御摂理修道女会
阿久根教会を中心に聖園老人ホームや教区内のベト



ナム人司牧のためにも活動しているポルティユの御摂理修道女会(本部・パリ)の総長と総顧問2人が阿久根修道院長のシスター・ワントンとともに、去る1月4日(土)11時に教区本部にて中野司教を表敬訪問した。中野司教からはこれまでのシスターの方の活動に対する謝辞があり、今後の同会の活動の展望について意見交換が行われた。

- ### 会と催し 2月
- 1日(土) 奉獻生活者と共にささげるミサ・ザビエル教会・14時
 - 2日(日) 主の奉獻
 - 4日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
 - 5日(水) ボッフィ神父命日(1988年)
 - 8日(土) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 9日(日) 青年会・教区本部・18時
 - 10日(月) 年間第5主日
 - 11日(火) 小島芳武助祭叙階記念(2019年)
 - 12日(水) 聖ヨハネ・パウロ2世教皇は、1984年2月11日(ルルドの聖母の記念日)に使徒的書簡「サルヴィフィチ・トロリス」を苦しみへのキリスト教的意味」を発表し、翌年の同日に教皇庁医療使徒職委員会(後に保健従事者評議会となり、現在は総合人間開発省に統合)を開設しました。そして1993年からこの日は「世界病者の日」と定められ、毎年教皇メッセージが発表されています。病者がふさわしい援助を受けられるように、また苦しんでいる人が自らの苦しみの意味を受け止めていくための必要な助けを得られるように、カトリックの医療関係者に対してだけでなく、広く社会一般に訴えていかなければなりません。医療使徒職組織の設立、ボランティア活動の支援、医療関係者の倫理的養育、病者や苦しんでいる人への宗教的な助けなども重要な課題です。
 - 14日(金) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
 - 15日(土) 柳本繁春神父命日(2002年)
 - 16日(日) 年間第6主日
 - 18日(火) 奄美の宣教司牧を考える会
 - 22日(土) 聖ペトロの使徒座
 - 23日(日) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 24日(月) 年間第7主日
 - 25日(火) 鈴木康由神父叙階記念(2013年)
 - 26日(水) 教区の日ミサ・カテドラル・17時30分
 - 27日(木) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
 - 27日(木) 東條一浩神父命日(2001年)

イグナチオの霊操②

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥



霊の識別(2)
私たちは霊的な存在なので、常に霊の影響を受けていると言えます。

ガラテア書に「肉」の業と「霊」の結び実について書いてあります。「肉の業は明らかです。それは、姦淫、わいせつ、好色、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、怒り、利己心、不和、仲間争い、ねたみ、泥酔、酒宴、その他このたぐいのものです。これに對して、霊の結び実とは愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節

制です」(ガラテア5・19)。

パウロは「霊」(聖霊)と対比して「肉」の業をこの箇所では扱っている。悪霊の影響として捉えることも可能でしょう。つまり、神の霊によって導かれた神中心の他者との関係を大切にすると、悪霊による自己中心的な傾きが示されています。

は、わたしたちに耳を傾けませんが、神に属していない者は、わたしたちに耳を傾けません。これによって、真理の霊と人を惑わす霊とを見分けることができず(1ヨハネ4・6)。

どまつていることは、「わたしたちが互いに愛し合う」(4・12)という霊の結び実を実行できた時に分かります。そして、神の霊は、多様性の中で一致や調和をもたせるといふことが、第一コリント書に、特に12章に描かれています。

後、キリスト者として成熟するのではなく、むしろ惑わされ、分裂し、信者間で優劣をつけ続けるコリントの人々に対して、「一人一人に、霊の働きが現れるのは、全体の益となるため(1コリント12・7)」。あり、「神は、御自分の望みのままに、体一つ一つの部分を置かれたのです。すべてが一つの部分になっ

- ### 【祈りの使徒会】
- 教 皇 司祭職や修道生活への召命
 - 日本の教会 病者
- お詫びと訂正
新年号1面の教区聖職者の一覧から永山幸弘神父(静養中)と四條淳也助祭(座間市)のお名前が抜けておりました。お詫びいたします。広報部

参考文献

Miguel Angel Fiorito, Cercare e trovare la volontà di Dio
新共同訳 新約聖書注解II

第39回屋久島シドゥッティ神父上陸記念祭

NPO法人やくしま未来工房 理事長 古居 智子

昨年11月23日、屋久島教会の敷地で「日出ずる国へひまわりの祭典」を開催しました。

今年で39回目になる「屋久島シドゥッティ神父上陸記念祭」は、今までとは異なり「NPO法人やくしま未来工房」が主催する野外イベントという初の試みで開催しました。

この上陸記念祭は、1983（昭和58）年に屋久町（現・屋久島町）主催で、故コンタリ二神父任期中に第1回が開催されて以来、コロナ禍の年を除いて毎年11月23日の祝日に上陸記念碑（1980年屋久町建立）の前で途切れることなく継続されてきました。町、区、地域住民そしてカトリック教会と信者という立場を超えた人々の継承の意志と努力があったからこそと言えるでしょう。



上陸記念祭の劇に使われた人形たち

当日は、青空が広がり穏やかな太陽が降り注ぐ天候に恵まれ、予想を上回る約250人の参加があり、イベント終了後に司式された教会でのミサには島外からの方々も参列しました。従来の式典の要素を冒頭に折り込むかたちで鹿児島県事務所長、町教育長、区長、中野司教の挨拶に続き、シドゥッティ屋久

しかし、上屋久町との合併を契機に町が5年に1度ののみ主催し、あとの年度はカトリック教会に主催譲渡をした2015（平成27）年から、参加数は年々減少の一途をたどっていったのは残念なことでした。そこで、より多くの方が気軽に参加できる記念祭に戻したいという思いから、「屋久島シドゥッティ記念館」建設予定地を使っての野外イベント開催をNPO法人が提案し、今回、実現しました。

短期間での準備でしたが、テントの貸与ばかりでなく設営・撤去まで手がけてくださった小島区、音響の担当をしてくださった屋久島町、当日のボランティア、出演者、出店者など多くの方の協力と支援で無事、成功裡に終了できました。

島上陸をテーマにした人形劇や地元住民によるギター、トランペットなどの演奏や歌がステージで繰り広げられ、また手作り品、リサイクル品、飲食などの店舗も会場を賑わすなど、緑の山並みと黄色いヒマワリの花を背景にした素晴らしい時間を共有できました。今年春に完成したばかりのシドゥッティ神父上陸地展望



タワーの周辺では区子ども会をはじめ多くの子どもたちの笑顔が見られたのが、何よりも楽しい雰囲気彩ってくれていました。それぞれの表現で、シドゥッティ神父の屋久島上陸を祝した1日であったと



要理

私たちがカトリック信者には覚えておくべきことがあります。その中で「天主の十戒」と「公会堂の六つの掟」を紹介しておきます。

古めかしい戒めのように思えるかもしれませんが、確かにそうでしょう。しかしみなさんの人生の中でこれらのことがふと思ひ出されること

がきつとあります。それにより正しい選択ができることがあるかもしれません。神様の御心になつた生き方をするためには神様と教会の教えを心に留めておくことが必要になります。今はこれらの大切さが分からないかもしれません。でも考えてみてください。これらに価値がなかったら廃れているはずですが、今も受け継がれているということはそこに神様の

思いです。新井白石に「なぜ、日本に来たのか？」と尋ねられて、シドゥッティ神父は「日出ずる国だから」といった趣旨の説明をしています。私たちの未来も明るい希望に満ちたものであることへの祈りを込めた上陸記念祭が、今後も地域とカトリック教会が協働する祭事として引き継がれていくことを願ってやみません。



受託したNPO法人やくしま未来工房が、子供たちにもシドゥッティ神父のことを知って欲しいという願いで、絵本「屋久島シドゥッティ上陸物語」が完成しました。シドゥッティの屋久島上陸から島民との交流までを主な題材とし、大人も十分に楽しめる内容となっています。この冊子は同法人が屋久島の小学校・中学校・高校で開催した出前授業の副読本として使われただけでなく、昨年11月23日（土）開催のシドゥッティ上陸記念祭の来場者にも配られました。町内の図書館をはじめ港、飛行場、観光協会など観光客の目に触れる場所にも配置されています。

カトリック信者が守るべき掟

- 第一…天主の十戒
- 第一…我は汝の主なる神なり。我の他、何ものをも神となすべからず。
- 第二…汝、神の名をみだりに呼ぶなかれ。
- 第三…汝、安息日を聖とすべきことを

- おぼゆべし。
- 第四…汝、父母を敬うべし。
- 第五…汝、殺すなかれ。
- 第六…汝、姦淫するなかれ。
- 第七…汝、盗むなかれ。
- 第八…汝、偽証するなかれ。
- 第九…汝、人の妻を望むなかれ。
- 第十…汝、人の持ち物をみだりに望むなかれ。

- Ⅱ 公会堂の六つの掟
- 一…主日と守るべき祝日に労働を休み、ミサ聖祭に参加すること。
- 二…少なくとも年に一度、ゆるしの秘跡を受けること。
- 三…少なくとも年に一度、復活祭の頃、聖体を拝領すること。
- 四…灰の水曜日と聖金曜日に、大齋、小齋または償いの業をする事。
- 五…金曜日に、小齋または償いの業をする事。
- 六…それぞれの分に応じて、教会維持費を負担すること。
- Ⅲ 大齋と小齋
- 大齋…一日に一食すること。ただし朝は少量、夜は通常の半分くらい取ることが出来ます。
- 小齋…鳥獣の肉を食べないこと。
- （大齋の掟は満18歳から59歳までの人が対象。小齋は満14歳以上の人が守らなければなりません。）